２(5)　実践の考察

ア　考察の視点

本研究委員会では、研究委員の所属校で児童の実態を継続的に把握し、研究委員自身が自身の日々の授業を振り返りながら、日々の授業の質的改善に取り組んできました。研究委員会がスタートした６月から約 10 ヵ月に渡る質的改善の営みの結果、今回の学習指導要領で整理された３つの資質・能力「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」が身に付いたのかどうかを検証しました。検証においては、新しい評価の３つの観点に沿って、これまでの授業の質的改善の成果を分析・考察します（そのうち、「学びに向かう力・人間性等」は、「主体的に学習に取り組む態度」として位置付けます)。ただし、「知識・技能」は、現行の評価の観点「社会的事象についての知識・理解」と「観察・資料活用の技能」として、「思考力、判断力、表現力等」は、現行の評価の観点「社会的な思考・判断・表現」として、「主体的に学習に取り組む態度」は、現行の評価の観点「社会的事象への関心・意欲・態度」とほぼ同じと捉えて、評価・分析することにしました（**表１**）。

表１　新学習指導要領と現行の学習指導要領の評価の観点

新学習指導要領	現行の学習指導要領
知識・技能	社会的事象についての知識・理解
	観察・資料活用の技能
思考力・判断力・表現力等	社会的な思考・判断・表現
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象への関心・意欲・態度

イ　分析

(ｱ) Ａ校第３学年

ａ　佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題及び意識調査の結果から（11月第１週に実施）

H26 年度佐賀県小・中学校学習状況調査【12 月調査】の第４学年を基にした調査問題の結果から分析しました。**次頁表２**はその結果を示しています。評価の観点「知識」「技能」「思考力・判断力・表現力」の全てにおいて、県が設定した「おおむね達成」の規準を上回っていました。日々の授業の質的改善の結果、児童に着実に資質・能力が育成できていることが伺えます。また、６月の段階（**２(3)-1 授業の質的改善のプロセス（Ａ校）**参照）では、個別に調べた事実のみに目が向き、事実相互を関連付けて考えたり、事実を基に特徴を考えたりすることは難しい実態がありましたが、実態調査では、消費者のニーズと販売側の工夫とを関連付けて考えることができた児童が全体の 69%いたことからも、授業の質的改善の成果が表れていると推察されます。また、６月の段階では、資料から情報を読み取ることが難しい実態がありましたが、「十分達成」の規準を上回っていることからも成果の一端を感じることができました。

「主体的に学習に取り組む態度」については、H29 年度佐賀県小・中学校学習状況調査【４月調査】で実施された意識調査の質問項目の中から社会科の学習に関する質問を抽出し、調査しました（**次頁図１**)。質問（１)「社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。」について、６月の段階と比べ 12 月はほとんど変化が見られませんでした。問題意識を持たせるために、学習問題の設定を工夫したり、単元の途中で学習問題を意識させるようにしたりしましたが、児童がより主体的に追究活動を行うことができるような手立ての工夫を考える必要があるといえます。

表２　佐賀県小・中学校学習状況調査【12 月調査】を基にした調査問題の結果

（H26年度佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】第４学年大問２）n=27

評価の観点	出題の趣旨	学習指導要領の内容	正答率（%）	期待正答率（%）	
				十分達成	おおむね達成
知識	販売の仕事に見られる工夫について理解している（売り場の広い通路）	地域の生産や販売イ	85%	85%	65%
	販売の仕事に見られる工夫について理解している（大きな文字）	地域の生産や販売イ	100%	85%	65%
技能	資料から、品物の産地について読み取ることができる	地域の生産や販売イ	85%	80%	60%
思考・判断・表現	資料を基に、消費者のニーズに合わせた販売の工夫について説明することができる	地域の生産や販売ア	69%	75%	55%

質問	選択肢	割合（%）	
		６月	11 月
（１）社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。	1　当てはまる	44%	35%
	2　どちらかといえば、当てはまる	44%	54%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	8%	11%
	4　当てはまらない	4%	0%
（２）社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。	1　当てはまる	20%	11%
	2　どちらかといえば、当てはまる	52%	50%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	28%	27%
	4　当てはまらない	0%	12%
（３）社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。	1　当てはまる	36%	38%
	2　どちらかといえば、当てはまる	44%	27%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	16%	35%
	4　当てはまらない	4%	0%

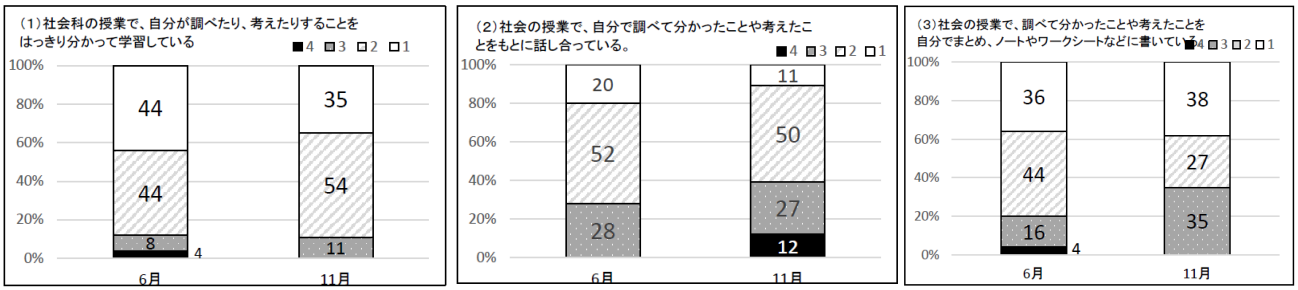


図１　意識調査の結果（H28年度佐賀県小・中学校学習状況調査【４月調査】の意識調査より）n=27

b　単元における観点ごとの評価の総括の結果から

単元全体を通して、資質・能力が育成できているかどうか、単元「私たちの佐賀市」（６月～７月実施）と「店で働く人」（９月～10月実施）の評価の総括の結果を基に分析しました。**次頁図２**はその結果を示しています。単元「私たちの佐賀市」では、学習問題についてまとめさせると、１単位時間ごとのめあて（学習課題）について記述したものが多く、これまで獲得した知識を相互に関連付けて記述したものがほぼいない実態がありました（**２(3)-1授業の質的改善のプロセス（Ａ校）**参照）。単元「店で働く人」では、販売の仕事の工夫を総合的に記述している児童の割合が11%と、単元「私たちの佐賀市」に比べると少なくなりましたが、販売の仕事の工夫を個別に記述している児童が全体の78%と増えたことからも、今後も継続的に社会的事象の意味を問う発問を段階的に行ったり、まとめの書き方を示す指導を行ったりする必要性があると考えます。

	「私たちの佐賀市（後半）」（７月実施）		「店で働く人」（９月実施）	
評価の観点	判定基準（判断する目安）	割合（%）	判定基準（判断する目安）	割合（%）
知識	A　佐賀市の様子について、市の土地利用の様子や公共施設、交通の様子それぞれの個別の事象を基に総合的に考えて記述している。	19%	A　販売の仕事が、集客を増やし売り上げを高めるために、工夫して行われていることを個別の事象を基に総合的に考えて記述している。	11%
	B　佐賀市の様子について、市の土地利用の様子や公共施設、交通の様子それぞれ個別の事象を記述している。	62%	B　販売の仕事が、集客を増やし売り上げを高めるために、工夫して行われていることについて個別の事象を記述している。	78%
	C　Bに達していない記述	19%	C　Bに達していない記述	11%
技能	A　佐賀市の地図や副読本などの資料から、市の土地利用の様子や公共施設、交通の様子を複数読み取り、記述している。	26%	A　教科書や副読本などの資料を基に、販売の仕事の工夫について複数読み取り、記述している。	41%
	B　佐賀市の地図や副読本などの資料から、市の土地利用の様子や公共施設、交通の様子を読み取り、記述している。	63%	B　教科書や副読本などの資料を基に、販売の仕事の工夫について読み取り、記述している。	56%
	C　Bに達していない記述	11%	C　Bに達していない記述	3%
思考・判断・表現	A　佐賀市の様子について、地理的要因と土地の利用のされ方とを関連付けて考え、記述している。	22%	A　販売の仕事の工夫や努力を消費者の願いや目的と関連付けて考え、記述している。	19%
	B　佐賀市の様子について、地理的要因や土地の利用のされ方を記述している。	59%	B　販売の仕事の工夫や努力を記述している。	70%
	C　Bに達していない記述	11%	C　Bに達していない記述	11%

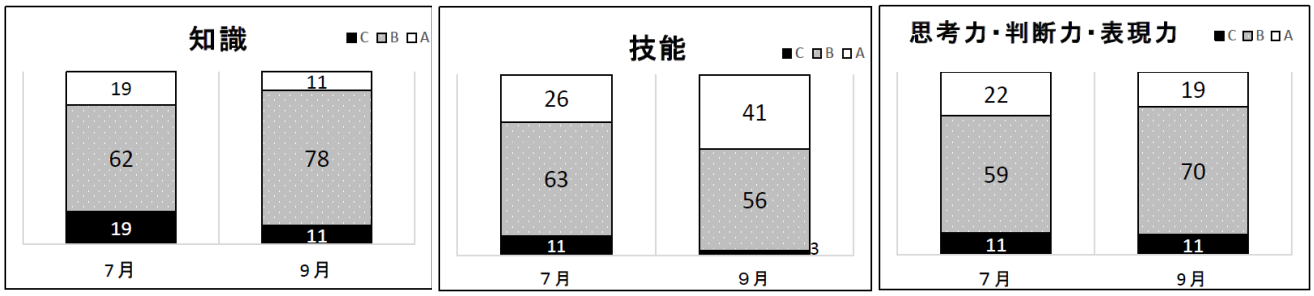


図２　単元「私たちの佐賀市」と「店で働く人」の単元の評価　n=27

c　検証授業の１単位時間の評価の結果から

検証授業の１単位時間を通して、資質・能力が育成できたかどうか、単元「私たちの佐賀市（５／６時)」（７月実施）と「店で働く人（５／12時)」（９月実施）における１単位時間のワークシートの記述を基に分析しました。**次頁図３**はその結果を示しています。本時の目標は、「スーパーマーケットで働く人は，消費者の願いや目的に合わせて様々な販売の工夫や努力をしていることを考え，表現することができるようにする（社会的な思考・判断・表現)」でした。

本時（**２(4)-1 実践事例（Ａ校）**参照）では、「事実を基に考えさせる発問を段階的に行う」ことを意識して実践を行いました。７月実施の「私たちの佐賀市（後半)」では、佐賀市について調べた事実を相互に関連付けて、佐賀市の地理的な特徴について考えることができた児童の割合が 15%でした。９月実施の「店で働く人」では、**次頁資料１**のＡ児のように複数の観点を基に、販売の仕事に見られる工夫と消費者の願いとを関連付けて考え、記述することができた児童の割合が全体の 48%と増えました。このことから、今後も社会的事象の意味を問う発問を行いながら、調べた事実同士を関連付けて考えさせる手立てを継続的に行っていくことで着実に力が付いていくものと考えます。

	「私たちの佐賀市」（７月実施）		「店で働く人」（９月実施）	
観点	判定基準（判断する目安）	割合（%）	判定基準（判断する目安）	割合（%）
思考力・判断力・表現力	A　佐賀市の工場が多い場所が、高速道路や国道などの近くであることと関連付けて考え、記述することができている。	15%	A　スーパーマーケットで働く人は，消費者の願いや目的に合わせて，商品，店内，店外に様々な工夫や努力をしていることを記述している。	48%
	B　佐賀市の工場が多い場所が、高速道路や国道などの近くであることに気付き、記述することができる。	66%	B　スーパーマーケットで働く人は，消費者の願いや目的に合わせて，店外の工夫をしていることを記述している。	37%
	C　Bに達していない記述	19%	C　Bに達していない記述	15%

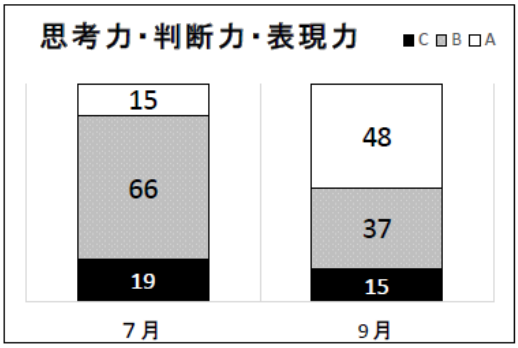
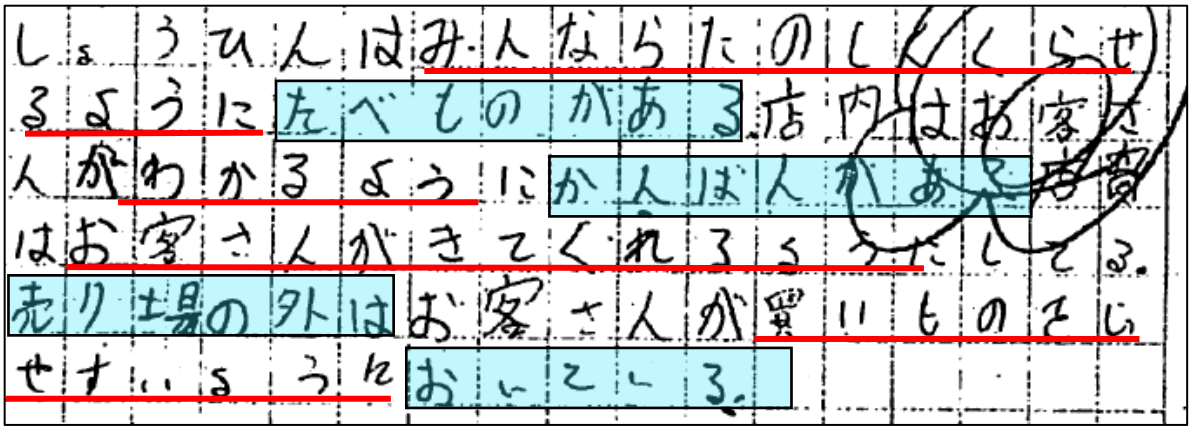


図３　単元「私たちの佐賀市（５／６時）」と「店で働く人（５／12 時）」におけるワークシートの記述 n=27



…客の願いに対する店側の工夫に関する記述　…消費者の願いに関する記述

資料１　Ａ児の「店で働く人（５／12 時）」におけるワークシートの記述 n=27

(ｲ) Ｂ校

ａ　佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題及び意識調査の結果から（11月第１週に実施）

H25 年度佐賀県小・中学校学習状況調査【４月調査】第５学年と H23 年度佐賀県小・中学校学習状況調査【４月調査】第５学年を基にした調査問題の結果から分析しました。**次頁表３**はその結果を示しています。評価の観点「知識」「技能」「思考力・判断力・表現力」全てにおいて、県が設定した「おおむね達成」の規準を上回っていました。日々の授業の質的改善の結果、児童に着実に資質・能力が育成できていることがうかがえます。また、７月の段階（**２(3)-2 授業の質的改善のプロセス（Ｂ校）**参照）では、個別に調べた事実のみに児童の目が向き、事実を基にその意味を考えたりすることは難しい実態がありましたが、実態調査では、調べた事実を基に、自分達でできる家庭で取り組むことができる

節水の方法について考えることができた児童が全体の 81%いたことからも、授業の質的改善の成果が表れていると推察されます。

「主体的に学習に取り組む態度」については、H28 年度佐賀県小・中学校学習状況調査の意識調査の質問項目の中から社会科の学習に関する質問を抽出し、調査しました（**図４**）。質問（１）「社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。」について、肯定的に回答した児童は減少しましたが、質問(２)「社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。」質問（３）「社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。」がわずかではありますが、増えていることが分かります。課題追究の過程で、調べたことや考えたことを伝え合うペアやグループの話し合いを積極的に取り入れたり、毎時間学習問題についての考えを記述させたりした取り組みが児童の主体的な学びにおいて効果的に働いていることが推察されます。

表３　佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題の結果

(H25年度佐賀県小・中学校学習状況調査【４月調査】第５学年大問４（１）、H23年度佐賀県小・中学校学習状況調査【４月調査】第５学年　大問４（１）（３）) n=27

評価の観点	出題の趣旨	学習指導要領の内容	正答率（%）	期待正答率（%）	
				十分達成	おおむね達成
知識	浄水場の働きを理解している	住みよいくらしア	70%	80%	60%
技能	グラフから水道料の変化を読み取ることができる	住みよいくらしア	96%	85%	65%
	グラフから水道料の変化を読み取ることができる	住みよいくらしア	52%	75%	55%
思考力・判断力・表現力	家庭で取り組むことができる節水の方法について考えることができる	住みよいくらしア	81%	70%	50%

質問	選択肢	割合（%）	
（１）社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。	1　当てはまる	70%	63%
	2　どちらかといえば、当てはまる	30%	33%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	0%	4%
	4　当てはまらない	0%	0%
（２）社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。	1　当てはまる	59%	52%
	2　どちらかといえば、当てはまる	30%	44%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	11%	4%
	4　当てはまらない	0%	0%
（３）社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。	1　当てはまる	70%	63%
	2　どちらかといえば、当てはまる	26%	37%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	4%	0%
	4　当てはまらない	0%	0%

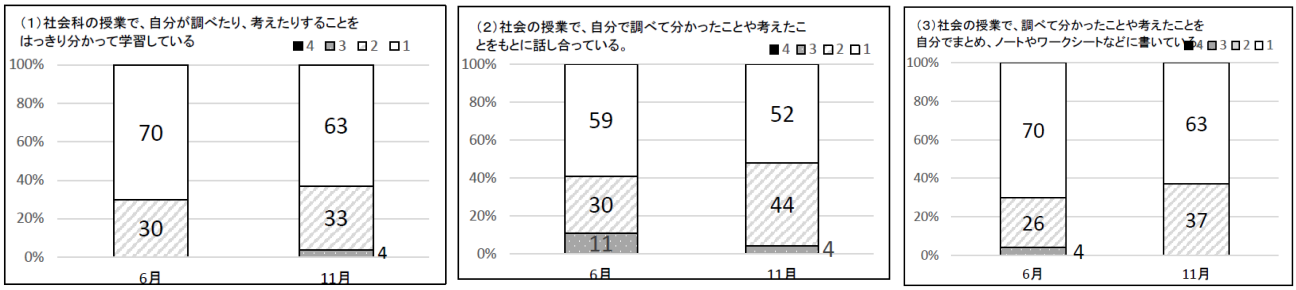
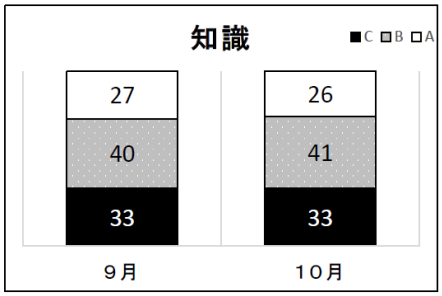


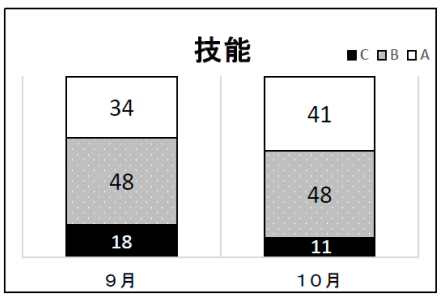
図４　意識調査の結果　n=27

b　単元における観点ごとの評価の総括の結果から

単元全体を通して、資質・能力が育成できているかどうか、単元「ごみの処理とその利用」（９月実施）と「郷土の発展に尽くす」（10 月実施）の評価の総括の結果を基に分析しました。**次頁図５**はその結果を示しています。単元「ごみの処理とその利用」では、複数の観点を関連付けて考えることができた児童の割合は 26%でした。しかし、「郷土の発展に尽くす」においては、全体の 67%の児童が「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」のうち２つ以上の観点で調べたことを関連付け、吉村新兵衛の嬉野への思いや嬉野の発展に尽くしたことについて考え、記述することができたことからも、単元を通して調べた事実を相互に関連付けて考え、社会的事象の意味について考える力が付いてきていることがうかがえました。

	「ごみの処理とその利用」（９月実施）		「郷土の発展に尽くす」（10月実施）	
評価の観点	判定基準（判断する目安）	割合（%）	判定基準（判断する目安）	割合（%）
知識	A　ごみの処理とその利用が、地域の人々の健康な生活を守るために計画的・協力的に行われていること、ごみの減量が大切であることを理解し記述している。	27%	A　吉村新兵衛について「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点ごとに事実を正しく記述し、吉村新兵衛の働きと関連付けて記述している。	26%
	B　ごみの処理とその利用が、地域の人々の健康な生活を守るために計画的・協力的に行われていることを理解し記述している。	40%	B　吉村新兵衛について「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点ごとに事実を正しく記述している。	41%
	C　Bに達していない記述	33%	C　Bに達していない記述	33%
技能	A　副読本や資料、インターネットのWebページ、見学で学んだことを基に、学習問題の解決に必要な情報を、「ごみの処理の工夫」と「自分たちの生活とのつながり」の観点ごとに読み取り、記述している。	34%	A　副読本や資料、インターネットのWebページ、ゲストティーチャーの話の内容を基に、学習問題の解決に必要な情報を、「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の観点ごとに読み取り、記述している。	41%
	B　副読本や資料、インターネットのWebページ、見学で学んだことを基に、学習問題の解決に必要な情報を読み取り、記述している。	48%	B　副読本や資料、インターネットのWebページ、ゲストティーチャーの話の内容を基に、学習問題の解決に必要な情報を読み取り、記述している。	48%
	C　Bに達していない記述	18%	C　Bに達していない記述	11%
思考力・判断力・表現力	A　「ごみの処理の工夫」と「自分たちの生活とのつながり」の２つの観点を関連付け、ごみの処理とその利用が計画的・協力的に行われることによって、人々の健康な生活の維持向上が図られていることを考え、自分たちにできることを記述している。	26%	A　「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」の全ての観点を関連付け、吉村新兵衛の嬉野への思いや嬉野の発展に尽くしたことについて考え、記述している。	26%
	B　ごみの処理とその利用が計画的・協力的に行われることによって、人々の健康な生活の維持向上が図られていることを考え、自分たちにできることを記述している。	55%	B　「時代」「お茶づくり」「感謝」「思い」のうち２つの観点を関連付け、吉村新兵衛の嬉野への思いや嬉野の発展に尽くしたことについて考え、記述している。	41%
	C　Bに達していない記述	19%	C　Bに達していない記述	33%





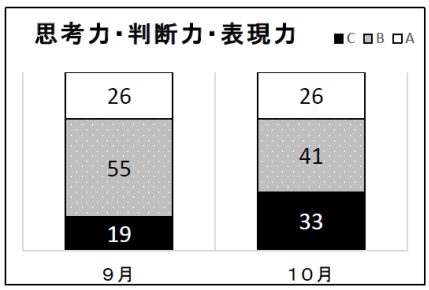


図５　単元「ごみの処理とその利用」と「郷土の発展に尽くす」の単元の評価　n=27

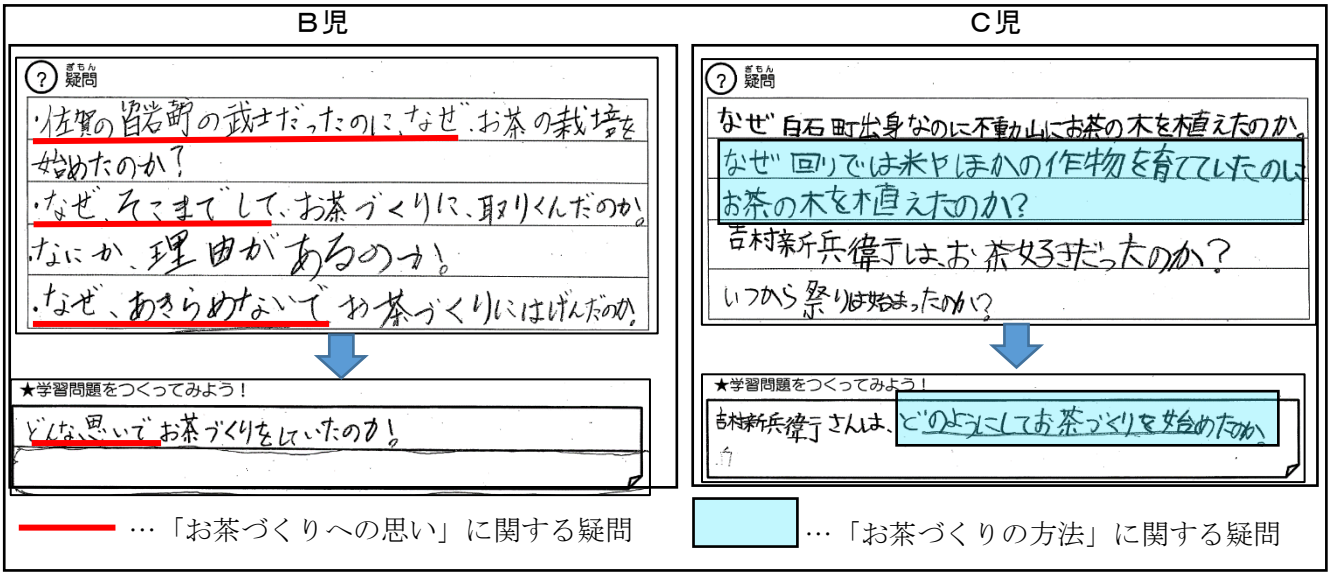
c　検証授業の１単位時間の評価の結果から

検証授業の１単位時間を通して、資質・能力が育成できたかどうか、「郷土の発展に尽くす（２／７時）」（10月実施）における１時間のワークシートの記述を基に分析しました。**表４**はその結果を示しています。本時の目標は、「吉村新兵衛に関する資料や写真への気付きや疑問を持ち、学習問題を考え、表現することができるようにする（社会的な思考・判断・表現）」でした。

本時（**２(4)-2実践事例（Ｂ校）**参照）では、「児童の問題意識を高めながら、気付きや疑問を基に単元の学習問題を設定する」ことを意識して実践を行いました。単元「ごみの処理とその利用」（９月実施）では、資料から児童の気付きや疑問を出させてはいたものの、教師が児童のつぶやきや発言を基に教師がまとめて学習問題を設定していたため、比較することはできませんが、本単元においては**資料２**のＢ児とＣ児のように、全体の75％の児童が資料を見て疑問に思ったことを基に、先人の働きや努力を追究することができるような学習問題を記述することができていました。課題追究の過程においては、学習問題を意識させるための手立ては必要になるかと思いますが、今回のように学習問題を自分たちでつくったという意識を高める手立ては今後も継続していく必要があると考えます。

表４　単元「郷土の発展に尽くす（２／７時）」におけるワークシートの記述分析n=24（３名欠）

評価の観点	判定基準（判断する目安）	割合（％）
思考力・判断力・表現力	Ａ　吉村新兵衛に関する資料や写真から気付きや疑問を持ち，先人の働きや努力を追究できるような学習問題を立てている。	75％
	Ｂ　吉村新兵衛に関する資料や写真から気付きや疑問を持ち，自分なりの学習問題を立てている。	17％
	Ｃ　Ｂに達していない記述	8％



資料２　Ｂ児とＣ児の「郷土の発展に尽くす（２／７時）」におけるワークシートの記述

(ｳ) Ｃ校

a　佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題及び意識調査の結果から（11月第１週に実施）

H28 年度・H27 年度・H26 年度の佐賀県小・中学校学習状況調査【12 月調査】第５学年を基にした調査問題の結果から分析しました。**次頁表５**はその結果を示しています。評価の観点「知識」「技能」「思考力・判断力・表現力等」全てにおいて、県が設定した「おおむね達成」の規準を上回っていました。日々の授業の質的・改善の結果、児童に着実に資質・能力が育成できていることがうかがえます。また、６月の段階（**２(3)-3 授業の質的改善のプロセス（Ｃ校）**参照）では、調べた事実相互を関連付け

て考えることが難しい実態がありましたが、実態調査では、全体の 81%の児童が生産者側（自動車工場）の工夫と消費者側のニーズとを関連付けて考えることができたことからも、授業の質的改善の成果が表れていると推察されます。

「主体的に学習に取り組む態度」については、H28 年度佐賀県小・中学校学習状況調査【12 月調査】の意識調査の質問項目の中から社会科の学習に関する質問を抽出し、質問しました（**図６**）。質問（１）「社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。」について、肯定的に回答した児童は微増ではありますが、増えていることが分かります。単元の導入部で単元のゴールや学習計画を示したり、「グループ学習」の目的を確認して話し合わせたりするなどの日常的な取り組みが主体的な学びの視点において、効果的に働いていることが推察されます。

表５　佐賀県小・中学校学習状況調査を基にした調査問題の結果

（H28年度佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】第５学年大問６（２）、H27年度佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】第５学年　大問６（１）H26年度佐賀県小・中学校学習状況調査【12月調査】第５学年　大問６（１））n=28

評価の観点	出題の趣旨	学習指導要領の内容	正答率（%）	期待正答率（%）	
				十分達成	おおむね達成
知識	自動車の生産過程を理解している	工業生産の様子ウ	81%	80%	60%
技能	自動車の生産に関する疑問について、適切に調べることができる	工業生産の様子ウ	63%	80%	60%
思考力・判断力・表現力	自動車工場が現地で生産している理由について説明することができる	工業生産の様子ウ	81%	75%	55%

質問	選択肢	割合（%）	
（1）社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。	1　当てはまる	52%	50%
	2　どちらかといえば、当てはまる	35%	44%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	13%	6%
	4　当てはまらない	0%	0%
（2）社会の授業で、自分で調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている。	1　当てはまる	52%	31%
	2　どちらかといえば、当てはまる	35%	44%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	6%	19%
	4　当てはまらない	6%	6%
（3）社会の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。	1　当てはまる	65%	81%
	2　どちらかといえば、当てはまる	29%	13%
	3　どちらかといえば、当てはまらない	6%	3%
	4　当てはまらない	0%	3%

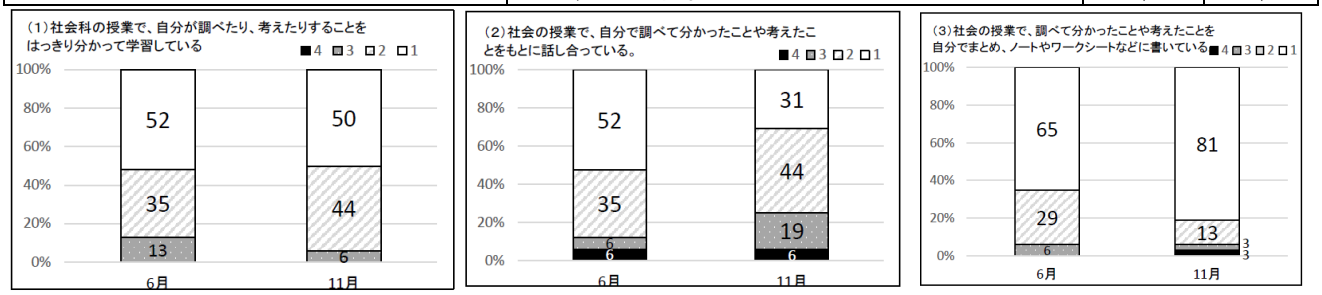


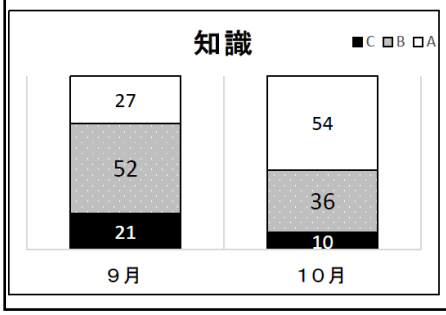
図６　意識調査の結果（H28年度佐賀県小・中学校学習状況調査）n=28

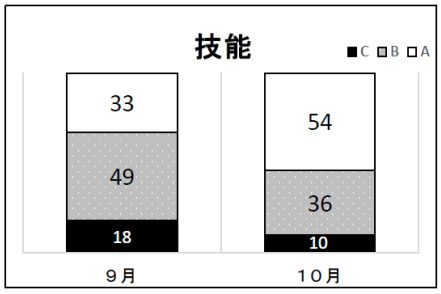
ｂ　単元における観点ごとの評価の総括の結果から

単元全体を通して、資質・能力が育成できているかどうか、単元「水産業の盛んな地域」（９月実施）と「自動車工業」（10月実施）の評価の総括の結果を基に分析しました。**次頁図７**はその結果を示してい

ます。評価の観点「知識」「技能」「思考力・判断力・表現力等」全てにおいて、A判定の児童の割合が増加しました。単元全体を通した質的改善の成果が表れていることがうかがえます。

	「水産業の盛んな地域」（９月実施）		「自動車工業」（10月実施）	
評価の観点	判定基準（判断する目安）	割合（%）	判定基準（判断する目安）	割合（%）
知識	A　日本の水産業の特色や現状、水産業に従事している人々の工夫や努力について、記述している。	27%	A　自動車の生産に関わる人々が、優れた製品を生産するために、消費者の需要や社会の変化に対応して、様々な工夫や努力をしていることを記述している。	54%
	B　日本の水産業の特色や現状、水産業に従事している人々の工夫や努力を理解し、記述している。	52%	B　自動車の生産に関わる人々が、優れた製品を生産するために、様々な工夫や努力をしていることを記述している。	36%
	C　Bに達していない記述	21%	C　Bに達していない記述	10%
技能	A　水産業に関する資料や地図、統計などの資料を目的に合わせて、収集・選択し、的確に読み取ったものを根拠として活用している。	33%	A　５つの工程や生産に携わる人々の工夫や努力について、資料から読み取り記述している。	54%
	B　水産業に関する資料や地図、統計などの資料を目的に合わせて、収集・選択し、的確に読み取っている。	49%	B　５つの工程や工程相互のつながりについて、資料から読み取り記述している。	36%
	C　Bに達していない記述	18%	C　Bに達していない記述	10%
思考力・判断力・表現力	A　水産業と加工や輸送の仕事との関わりを関連付けて記述している。	39%	A　これからの日本の自動車づくりの進め方について、調べたことと自動車生産の工夫や社会的な問題とを関連付け、根拠を明らかにして記述している。	46%
	B　水産業と加工や輸送の仕事との関わりを記述している。	52%	B　これからの日本の自動車づくりの進め方について、調べたことを関連付け、根拠を明らかにして記述している。	46%
	C　Bに達していない記述	9%	C　Bに達していない記述	8%





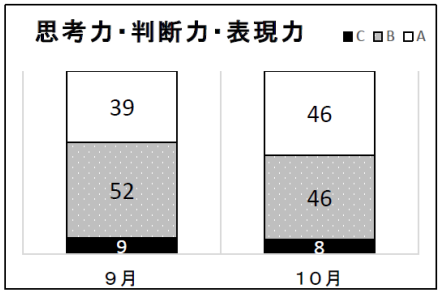


図７　単元「水産業の盛んな地域」と「自動車工業」の単元の評価　n=28

c　検証授業の１単位時間の評価の結果から

検証授業の１単位時間を通して、資質・能力が育成できたかどうか、「水産業の盛んな地域（６／６時)」（９月実施）と「自動車工業（８／11時)」(10月実施）における１単位時間のワークシートの記述を基に分析しました。**次頁図８**はその結果を示しています。本時の目標は、「これからの日本の自動車づくりはどのように進めていくべきか自分の考えを持ち、記述することができるようにする（社会的な思考・判断・表現)」でした。

本時（**２(4)-3 実践事例（Ｃ校）**参照）では、「視点を設定し、グループ学習と全体での学習において意見の質を高める」ことを意識して実践を行いました。９月実施の「水産業の盛んな地域（６／６時)」では、これからの水産業について考えることができた児童の割合が 40%でしたが、10 月実施の「自動車工業」では、**次頁資料３**のＤ児のように、全体の 46%の児童がこれからの日本の自動車づくりの進め方

を自動車が人や環境に与える影響や世界情勢など複数の側面から根拠を明らかにして記述することができました。このことから、今後も社会的事象の中から社会的な問題を明らかにし、様々な立場や視点から自分の考えを持たせ交流させる活動を継続的に行っていくことで、着実に力が付いていくものと考えます。

	「水産業の盛んな地域（６／６時）」（９月実施）		「自動車工業（９／11時）」（10月実施）	
評価の観点	判定基準（判断する目安）	割合（%）	判定基準（判断する目安）	割合（%）
思考力・判断力・表現力	A　水産業を取り巻く様々な問題点に気付き、問題点と関連させながら、これからの水産業の発展について考え、分かり易くまとめている。	40%	A　交通事故や環境問題，社会の情勢など複数の側面から，これからの日本の自動車づくりの工夫を根拠を明らかにして記述している。	46%
	B　水産業を取り巻く様々な問題点に気づき、これからの水産業の発展について考え、分かり易くまとめている。	45%	B　交通事故や環境問題，社会の情勢など，１つの側面から，これからの日本の自動車づくりの工夫を根拠を明らかにして記述している。	46%
	C　Bに達していない記述	15%	C　Bに達していない記述	8%

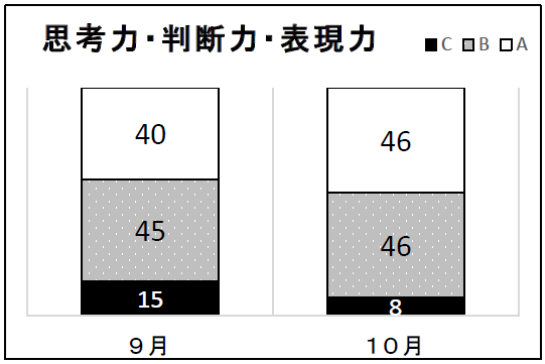
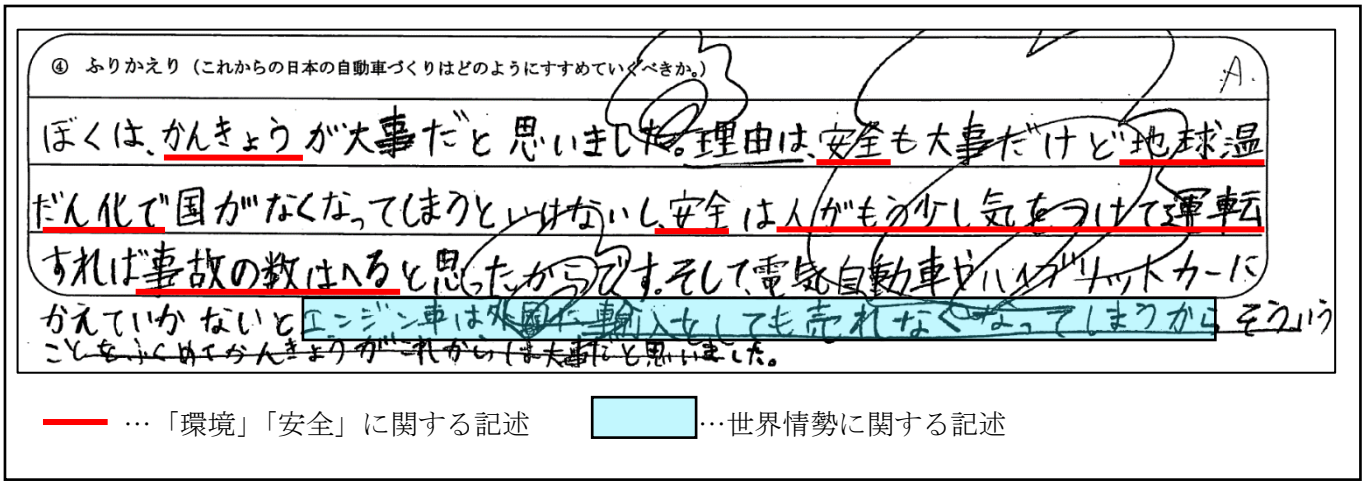


図８　単元「水産業の盛んな地域（６／６時）」と「自動車工業（９／11時）」におけるワークシートの記述分析n=27


④ ふりかえり（これからの日本の自動車づくりはどのようにすすめていくべきか。）

A.

ぼくは、かんきょうが大事だと思いました。理由は、安全も大事だけど地球温だん化で国がなくなってしまうといけないし、安全は人がもう少し気をつけて運転すれば事故の数はへると思ったからです。そして電気自動車やハイブリットカーにかえていかないとエンジン車は外国に輸入をしても売れなくなってしまうからそういうことをふくめてかんきょうがこれからは大事だと思いました。

…「環境」「安全」に関する記述　　…世界情勢に関する記述

資料３　Ｄ児の「自動車工業（８／11時）」におけるワークシートの記述